

# 魚や貝を育むヨシ帯を守る

—びわこ環境保全活動組織—



滋賀県  
近江八幡市

私たちが活動している近江八幡市は、びわ湖の東側にあり、県内最大の内湖である西の湖と淡水湖で日本で唯一人が住む島沖島を有しています。・漁業は海と同じ漁法もありますが、琵琶湖独特の漁法があります。近江八幡市地域では、小型定置網漁業やアユ沖すくい網漁業、刺網漁業が主に営まれています。また、内湖の西の湖では、淡水真珠養殖漁業も営まれています。私たちが守り育てているヨシ帯は、フナやモロコなどの魚にとって重要な産卵繁殖の場であるとともに、稚魚の生育の場でもあることから、異常繁茂するホテイアオイやヒシなどを除去し、琵琶湖の水質・底質環境を保全しています。

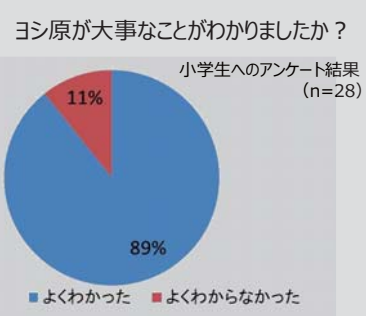
年間スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
干潟等の保全					←→							
ヨシ帯の保全					←→							
教育と啓発の場の提供							環境学習会					
食文化の継承				ふなずし講習会								

名称：びわこ環境保全活動組織  
(平成25年6月11日設立)  
構成員：近江八幡漁業協同組合  
滋賀県真珠養殖漁業協同組合  
沖島漁業協同組合  
地域住民 216名

漁業や漁船の航行に支障  
漁場環境の悪化、貝類の生育悪化  
ヨシ帯の産卵繁殖の場としての機能低下



## びわ湖の漁業勉強会 (島小学校3年生)



漁業者が、実際使っている漁具をみせながら、使い方や獲れる魚を説明します。



ホテイアオイは取り上げれば、繁茂を抑えることができます。



毎年繰返し

浮遊植物のホテイアオイは、11月頃までに水面から取り上げることで完全に除去することができます。しかし、浮葉植物のヒシは、水面から取り上げる時に、湖底に種子が落ちてしまうため毎年繁茂してしまいます。水面を覆い尽くしたヒシの刈り取りはとても重労働であるため、種子のできる頃の夏場に作業するのは難しく、どうしても秋からの除去作業となっていました。

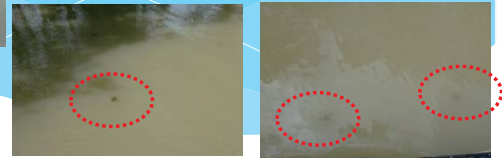
ところが、ヒシの葉が水面に浮かびあがる5月下旬ごろであれば、マンガで湖底を耕うんするだけで、ヒシを大量に絡め取れることがわかりました。このおかげで、除去作業が楽になり、夏場の漁船の航行も大幅に改善されました。



20mほど曳くだけで、伸長途中のヒシがまとまって採れます。



初夏までにマンガでヒシを除去すれば、繁茂を抑えられます。



水面にヒシの葉がポツポツ見え始めたら**除去サイン!**



活動組織 びわこ環境保全活動組織  
事務局：〒523-0808 滋賀県近江八幡市長命寺町29-4 近江八幡漁業協同組合内  
TEL:0748-32-4405